

物理療法機器と在宅医療 病気の早期発見から予防の時代へ

荻原信夫

伊藤超短波株式会社 総合技術研究所

1. 抗加齢ドックがどんどん増えてい
る読売新聞によると、東海大や愛媛大などの大学病院も開設に乗り出してきている。

今迄の人間ドックは病気の早期発見を目指しているが、加齢ドックは体質的になりやすい病気を知り、生活習慣を変えて発病を防ぐのが狙い。

ホルモン量や抗酸化力、免疫力などを詳しく調べる。血液検査が一番の特色。

2. 内臓脂肪症候群

内臓脂肪を出発点として、そこから糖尿病、高血圧、高脂血症を引き起こすことがわかってきた。そして、それぞれの項目の組合せが、心臓病や脳卒中と密接にかかわっていることが明確になった。

(2001 年の厚労省研究班調査結果)

3. 「間違いだらけの診断基準」東海大学医学部教授 大櫛陽一著

全国 45 ヶ所の健診実施機関より約 70 万人のデータを集めて、世界的に標準となっている検査項目の基準範囲作成方法と同じ結果が得られる科学的な方法で作成している。

4. 日本の医療制度は大きな転換期を迎えている

エビデンス重視

権威で物事を決める時代からエビデンスに基づく基準作りの時代に入ってきた。権威で決めるのはおかしいという声が医療側から出てきて、こうゆう本が新聞で大きく取り上げられることが、時代変化の現われである。

薬万能から生活習慣の改善へ（治療から予防へ）

メタボリック・シンドロームのような病気の場合、薬で脂肪は燃えないことから、治療も予防も共に運動や食生活の改善し

か方法はない。この病気は脂肪が燃えて無くならない限り治療も予防も出来ない。

5. 物理療法の役割

生活習慣の改善の補助手段、手軽に出来る生活習慣改善という役割を果たせるようになる。生活習慣病の改善には薬物療法より物理療法の方がずっと合理的である。

6. 電磁波の影響を与える医療機器

物理療法機器のみでなく在宅で扱われている医療機器や患者の周辺で使用されている家電を含む電子機器との関連並びに、それらの電磁波影響を把握し実態を知り、その対応を心掛ける事が大切である。

7. まとめ

- ・ 患者の視点に立った、安全・安心で質の高い医療が受けられる体制在宅医療の推進。
- ・ 生活習慣病対策の推進体制の構築予防の重視（生活習慣の改善は物理療法の役割）
- ・ 在宅での電磁障害 EMI からの在宅患者の保護が必要

引用参考文献

伊藤超短波株式会社 「病気の早期発見から予防の時代へ」